

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	0	0	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	5	1	ヘルパンギーナ	137	166
咽頭結膜熱	10	9	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	75	66
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	23	40	急性出血性結膜炎	0	1
感染性胃腸炎	147	141	流行性角結膜炎 (はやり目)	13	9
水痘	43	41	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	345	514	無菌性髄膜炎	0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	9	7	マイコプラズマ肺炎	1	1
突発性発しん	56	63	クラミジア肺炎	0	0

報告が多い感染症

- 手足口病
- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ

- 手足口病は、報告数 345 件(前週報告数 514 件)と減少。
地区別では、天草、菊池、宇城に多く報告がみられる。
年齢別では、1歳の 115 件を最多に、主に 10~14 歳以下からの報告である。
- 感染性胃腸炎は、報告数 147 件(前週報告数 141 件)とやや増加。
地区別では、人吉、山鹿、有明に多く報告がみられる。
年齢別では、1歳の 34 件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- ヘルパンギーナは、報告数 137 件(前週報告数 166 件)と減少。
地区別では、天草、人吉、菊池に多く報告がみられる。
年齢別では、1歳の 43 件を最多に、10~14 歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血 性リソ球 菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺炎	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミ ジア肺炎
熊本市保健所	4	4	4	4	36	9	114	4	22		29	37		5				1
山鹿保健所					12		17	1	1		2	1	*	*				
菊池保健所				6	12	1	41	1	8		21	13		6				
阿蘇保健所				1	1		3						*	*				
御船保健所					3		1						*	*				
八代保健所				1	6	6	33	3	4		7	3						
水俣保健所					2	4	6		4		2		*	*				
人吉保健所					38	13	18		5		16	6	*	*				
有明保健所			3	2	19	3	11		5		15	12		1				
宇城保健所	1			1	9	3	29		5		6	3						
天草保健所			3	8	9	4	72		2		39			1				
計	0	5	10	23	147	43	345	9	56	0	137	75	0	13	0	0	1	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	0																					
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	5	1	3	1																		
咽頭結膜熱	10			2	3	2	1	2														
A群溶血性リソ球菌咽頭炎	23			1	4	3	2	1	2	4	2		3		1							
感染性胃腸炎	147	2	10	34	11	14	17	13	4	7	6	7	11	3	8							
水痘	43	3	1	13	11	6	4	1			3		1									
手足口病	345	3	41	115	59	53	25	22	8	6	4	1	6		2							
伝染性紅斑	9			4		2		3														
突発性発しん	56	4	33	19																		
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	137	2	19	43	22	26	13	7	2	1			2									
流行性耳下腺炎	75			13	8	9	11	14	5	5	3	2	5									
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	13	2	2												3	3	1			1	1	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	1				1																	
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- 手足口病：熊本・山鹿・菊池・八代・水俣
人吉・有明・宇城・天草
- ヘルパンギーナ：菊池・人吉
有明・宇城・天草

ヘルパンギーナ
手足口病



手足口病の報告数は、5週連続で減少していますが、引き続き警報レベルが続いています。また、保健所別でみると、菊池、人吉、天草はこれまで減少傾向にありましたが、今回増加しています。また、阿蘇はこれまで報告がほぼありませんでしたが、やや増加しています。また、医療機関からも手足口病に2回罹った例が複数報告されています。手足口病は、複数のウイルスが原因となるため、一度感染した方でも別のウイルスが再び感染することがあるため、引き続き感染予防を行うことが重要です。また、ヘルパンギーナも警報レベルが続いているため、引き続き注意してください。手足口病、ヘルパンギーナともに、幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。手足口病は、口の中や手、足などに水疱性の発疹が見られる疾患で、ヘルパンギーナは、発熱とのどにあらわれる水疱性発疹が特徴です。患者の便や咳、くしゃみから感染しますので、予防法としては、排便処理後、食事前、調理前の手洗いやうがいなどが有効です。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課